

Let's Read 40

目次

☆書名をクリックすると書評が読めます。

予約には、図書館の資料利用券・パスワードが必要です。

☆詳しくはこちらをご覧ください⇒

☆📖をクリックすると、図書館 HP で本の情報を読んだり、予約したりすることができます。

	書名		書名	
1	あした、弁当を作る。		21 アンネの日記 増補新訂版	
2	明日の子供たち		22 影との戦い改版(ゲド戦記1)	
3	あと少し、もう少し		23 最後のひと葉	
4	あなたの言葉を		24 はてしない物語	
5	医学のたまご		25 星の王子さま	
6	一瞬の風になれ		26 絵ときゾウの時間とネズミの時間	
7	カラフル		27 紙つなげ！彼らが本の紙を造っている	
8	給食アンサンブル		28 カレーライスを一から作る	
9	きよしこ		29 北里大学獣医学部 犬部！	
10	くちびるに歌を		30 きみの人生はきみのもの一子どもが知っておきたい「権利」の話	
11	蜘蛛の糸		31 「空気」を読んでも従わない	
12	父の詫び状 新装版		32 聖の青春	
13	二十四の瞳		33 さばの缶づめ、宇宙へいく	
14	ねらわれた星		34 素数ゼミの謎	
15	ハーベスト		35 だれも教えてくれなかったエネルギー問題と気候変動の本当の話	
16	ぼくがゆびをぱちんとならして、きみがおとなになるまえの詩集		36 小さなかがやき	
17	僕は、そして僕たちはどう生きるか		37 ニワシドリのひみつをもとめて	
18	坊っちゃん		38 見たことのないものをつかまえたい！世界の変な生き物探訪記	
19	妖怪アパートの幽雅な日常1		39 ヤモリの指から不思議なテープ	
20	アルジャーノンに花束を 新版		40 ローザ	

日本文学

外国文学

ノンフィクション

日本文学

1 あした、弁当を作る。 ひこ・田中/著 講談社



「行ってらっしゃい。タツちゃん」
学校に行くぼくの背中に、いつものように母親が軽く触れた。ゾクツと寒気がした。昼休み弁当を開け、プレッシャーで一気に食欲が落ちる。いったい、ぼくは、どうなってしまったのだろう。父さんは、弁当を作るのは母さんの仕事だと言う。専業主婦って何？ぼくは自分で弁当を作りたいのだ。幼なじみや友だちに相談しながら成長していく龍樹。「あした、弁当を作る」中学生男子・タツキ、自立できるのか？

2 明日の子供たち

有川浩/著 幻冬舎



「あしたの家」は、親と一緒に住めない90人の子どもたちが暮らしている児童養護施設だ。高校卒業後施設を出るため、自分の進路に悩み葛藤する高校生の奏子、久志、杏里。希望に満ちあふれ、転職先である「あしたの家」に着任した新米の三田村慎平を中心に、3年目の和泉、ベテランの猪俣らの視点で児童養護施設の生活が描かれる。

3 あと少し、もう少し 瀬尾まいこ/著 新潮社



今まで先輩が作り上げてきた駅伝チームの伝統をつなぎたい。しかし、新顧問の上原先生は、駅伝を全く知らない。

寄せ集めの駅伝チームは、陸上部部長の榊井、内気な設楽、榊井に憧れる俊介、不良の太田、皮肉な渡部、お調子者ジロー。各々が抱えている悩みや思いとは…。ばらばらだった中学生の彼らを、みえない何かが徐々につなぎ始める。

クリックすると、目次に戻ります。⇒

目次へ

4 あなたの言葉を



辻村深月/著 毎日新聞出版

この本は、辻村深月さんが連載している、毎日小学生新聞の記事をまとめたものです。日常生活から取り上げた話題について書かれていますが、悩める子どもたちに誠実に向き合った、応援メッセージになっています。辻村さんは、子どもの頃に疑問に思ったり納得しなかったことをずっと考え続け、大人になった今、自分の言葉でそのことをちゃんと説明できるまでになりました。辻村さんの言葉に、多くの人が勇気づけられることでしょう。

5 医学のたまご 海堂尊/作 ヨシタケシンスケ/絵 理論社



中学1年生の僕は全国潜在能力試験で全国1位になり、特待生として大学で医学の研究をすることになった。でも本当は普通の中학생で、試験もパパが問題を作ったからできただけだった。それでもなんとか数々のピンチを切り抜け、ついにはノーベル医学賞を取れそうな大発見をした。と思ったのだが、それは間違いだったから大変なことになってしまった。絶体絶命だ。

6 一瞬の風になれ



佐藤多佳子/著 講談社

陸上競技は、ただ速く走るだけのスポーツ…そう思っている人にこそ読んで欲しい。校庭で、外周で、そして競技場のトラックで……彼らは、最高のドラマを描き出す。優秀なサッカー選手の兄を持つ新二。中学のサッカーで挫折を経験した彼は、幼なじみで短距離の天才である連と二人で、高校の陸上部に入部する。競技への熱い想い、仲間、ライバル、練習、挫折、本番、コンマ1秒の戦い、恋、これぞ青春小説だ。

クリックすると、目次に戻ります。⇒

目次へ

7 カラフル

森絵都/著 講談社



ぼくはチャンスをもたらした。ぼくは「死んだ魂」なのだが、生きている間に大きなあやまちを犯したらしい。「らしい」というのは、もうぼくには前世の記憶がないからだ。けれども、ぼくは抽選に当たり、下界で一定期間、小林真の体を借りて過ごすことになった。本来なら二度と生まれ変わることはできないはずのぼくだが、この間に、前世で犯したあやまちの大きさを自覚できれば、輪廻できるのだという。

8 給食アンサンブル 如月かずさ/作 五十嵐大介/絵 光村図書出版



皆さんは「給食」好きですか？どのメニューが好きですか？いつも学校で食べている給食。『給食アンサンブル』はその給食を通して悩みを抱える中学生6人の心が動かされていく物語です。この本に登場する給食のメニューはどれも一度は食べたことあるかもしれないものです。普段何気なく食べている給食が特別なものになる、そう感じさせられる1冊です。

9 きよしこ

重松清/著 新潮社



吃音(きつおん)のため自分の思いをスムーズに話せない主人公の少年きよし。傷つきやすくナイーブな少年の心情が等身大で描かれていて、読者の隣に主人公がいるかのような親近感を持たせる作品である。中学生のこの時期だからこそ読んで「少年」の心の奥に触れてほしい。そして少年が青年に成長していく過程を味わってほしい。

クリックすると、目次に戻ります。⇒

目次へ

10 くちびるに歌を

中田永一/著 小学館



長崎県五島列島の中学校の合唱部。産休に入る音楽教師の代理で、美人な柏木先生がやってきた。先生目当ての男子部員と真面目な女子部員で対立している中、Nコンの課題曲「手紙～拝啓十五の君へ～」にちなみ、十五年後の自分に向けて手紙を書くよう、先生は合唱部員たちに宿題を課した。そこには部員たちの、誰にも言えない、等身大の秘密が綴られていた。

11 蜘蛛の糸

芥川龍之介/著 文藝春秋



犍陀多(かんだた)は大泥棒。人を殺したり家に火をつけたり、いろいろ悪事を働いてきた。今は、地獄の底で苦しんでいる。生きているとき、たった一つだけ善いことをした。路ばたを這う小さな蜘蛛を一匹、踏みつぶさなかったことだ。それを思い出したお釈迦様が、出来るなら犍陀多を救い出してやろうと、極楽にいる蜘蛛の糸を、地獄の底へ、まっすぐに御下しなされると…。

12 父の詫び状 新装版

向田邦子/著 文藝春秋



『父の詫び状』は、ある父親の生き方を垣間見ることができる作品である。話のラストシーン、思いがけず作者が目にした父の「詫び状」からは、照れ性であった父らしい愛情を感じることができる。それだけではない。作品の端々での父の言動からもやはり、不器用な頑固親父なりの優しさを感じることができるのだ。この作品では時代を問わない家族愛を、作者の軽妙な語り口で存分に味わってもらいたい。

クリックすると、目次に戻ります。⇒

目次へ

13 二十四の瞳



壺井栄/著 新潮社

時代は昭和初年。師範学校を卒業して小豆島の分教場に赴任してきた若い大石先生と12人の教え子たちとの愛情溢れる物語。子どもたちの中にある美しいものに目を注ぎ、それをどこまでも伸ばしていこうとする先生。戦争という不可抗力に押し潰されながらも懸命に生きる島の人々。しかし、戦争は無慈悲に人々の心を引き裂いていく。それでも人々は前へ進む。最後の場面、静かに涙するでしょう。

14 ねらわれた星



星新一/作 和田誠/絵 理論社

「厚い本は苦手」「長いお話が読めない」「古臭いお話はちょっと…」「人間観察って面白い」「不思議な道具やロボット大好き!」どれか一つでも当てはまるなら、星新一の世界へようこそ。1001の話を作ったショートショート的神様が、あなたを待っている。どこから読んでも大丈夫。まずはこの1冊、この1話。原稿用紙わずか数枚のお話が、皆さんを宇宙へ、未来へ、過去へ、少し不思議な世界へ連れて行ってくれるはずだ。

15 ハーベスト



花里真希/著 講談社

本好きで、人と話すのは極端に苦手な中学1年生の黒田(ぼく)、見た目が怖そうだけど、実は虫好きで心優しい西森くん、帰国子女の2年生アズサは、廃部寸前の園芸部のメンバー。最初は、園芸に関する言葉も、やるべきこともわからなかった3人だが、顧問の先生や協力してくれる先生に助けられ、野菜や花を育てて少しずつ活動を本格化させていく。それぞれに抱えていた悩みと向き合い、植物とともに成長していく3人の物語。

クリックすると、目次に戻ります。⇒

目次へ

16 ぼくがゆびをぱちんとならして、きみがおとなになるまえの詩集



齊藤倫/著 高野文子/画 福音館書店

「ただしいことば」って？「聞きまちがいも実はおもしろい」などのテーマが章ごとにあり、ストーリーの中にことばと詩の魅力がギュッと詰まった作品です。小学生の「きみ」におじさんの「ぼく」が意味のない言葉や理解できないことばとの向き合い方などを、全部で20篇の詩を通して導きます。ふたりの会話を通して読者を心温まる世界に誘う、齊藤倫さんによる詩のアンソロジー。「詩」の深い世界にあなたも魅了されてみませんか。

17 僕は、そして僕たちはどう生きるか 梨木香歩/作 理論社



コペル君はずっと学校に行っていない友達のユージンから、学校に行かなくなったきっかけの出来事を聞き、自分はなんとなく見過ごしてしまっていた事が、ユージンを深く傷つけていたことを知る。人は一人では生きられない。他人と関わり、社会の中で生きていくものだ。そして他人や社会はあるとき突然、私に「どう生きるか」を問いただしてくる。

18 坊っちゃん



夏目漱石/著 新潮文庫

「親譲りの無鉄砲で子供の時から損ばかりしている。」この冒頭があまりにも有名な、夏目漱石の記念碑的な作品。今から100年以上前に書かれたものでありながら、話し言葉に近い文章で容易に理解できるうえ、随所に見られるユーモアに笑われ、一気に読める名作である。四国の中学に赴任した直情径行の新任教师「坊っちゃん」に多くの人が共感するのではないだろうか。

クリックすると、目次に戻ります。⇒

目次へ

19 妖怪アパートの幽雅な日常1 香月日輪/著 講談社



『寿荘』駅徒歩10分。2畳と6畳の2部屋。風呂・トイレ共同
賄い付き。南向きで家賃は二万五千円。お得な物件には訳
がある？そう、出ます。『アレ』が。

高校入学と共に下宿暮らしを始めたタ士が出会ったの
は、通称『妖怪アパート』と愉快的な面々。人間と妖怪と幽霊
が入り乱れる日常は、波瀾万丈奇々怪々。個人的に住んで
みたいアパート No1の幽雅な日常を、覗いてみませんか？
美味しそうなご飯多数。空腹時に読むとキケン！

クリックすると、目次に戻ります。⇒

[目次へ](#)

20 アルジャーノンに花束を 新版 ダニエル・キイス/著 小尾芙佐/訳 早川書房



チャーリー・ゴードンは32歳だが、知能はこども程度で、パン屋の店員として働いている。ある日、大学の教授から「かしこくなれる」と聞いて、白ネズミのアルジャーノンを競争相手に検査をした。やがて手術を受けると、彼の知能はどんどん上がっていく。「けえかほおこく」は「経過報告」になった。今までわからなかったことが、良くも悪くも理解できるようになっていた。劇的な変化を遂げ、彼が最後に書く報告書は胸にしみる。

21 アンネの日記 増補新訂版 アンネ・フランク/著 深町眞理子/訳 文藝春秋



アンネと家族はヒトラー・ナチスのユダヤ人迫害のため、オランダのアムステルダムで隠れ家生活に追い込まれる。戦争の恐怖に怯え、食べ物もなく隠れ家から一步も外出できない日々の中、アンネはナチスに見つかるまでの二年間、日記を書き続けた。絶望的な環境にしながらも自分の可能性を信じ、未来に明るい希望を持ち、素直に考えや気持ちをつづっている。逆境にあっても決して勇気を失わないでいられるように、人間性に対する信頼を、希望のメッセージを与えてくれる。

22 影との戦い 改版(ゲド戦記1)アーシュラ・K、ル＝グウィン/作 清水真砂子/訳 岩波書店



ゴント島を魔法の力で救った少年は偉大な魔法使いの弟子となり、ゲドと名付けられた。修行を重ね、さらにローク島の学院へ魔法を学びに行く。ゲドは誰からもその力を認められる存在となったが、分別のなさから禁じられた魔法を使い、生死をさまよう。彼は回復して修行を続けるが、その心身には大きな傷を負い、追ってくる影におびえていた。

23 最後のひと葉



オー・ヘンリー/著 千葉茂樹/訳
和田誠/絵 理論社

病気の少女ジョンシーと彼女を励ますスー、そして彼女のために命を葉の絵に変えて散った老人ベアマンの物語。少女は自らの命を“木から今にも取れて落ちそうな枯葉”に例え、「最後の一枚が落ちた時、自分も死ぬ」と思い込んでしまう。彼女に生きる希望をもたらそうと、老画家が己の命を賭けて絵を描いていく。自らを犠牲にして少女を救った老人の温かさ、亡くなってしまった老人へのやりきれぬ想いが残る作品である。

24 はてしない物語



ミヒャエル・エンデ/作
上田真而子・佐藤真理子/訳 岩波書店

バスチアンが手にした赤い本「はてしない物語」、それはあなたが手にしたこの本と同じものである。本の中に緑の字と赤い字が印刷されている。緑の字は物語の世界、赤い字は人間の世界を描いている。本の中にはファンタジーエンという物語の国が広がっている。あなたもバスチアンといっしょに「はてしない物語」の中に広がるファンタジーエンに行ってみませんか。行ったあと、帰ってこられるかは誰にもわからないけれど…。

25 星の王子さま



サン＝テグジュペリ/作
内藤濯/訳 岩波書店

砂漠に飛行機が落ち、そう難した男が出会った小さな星の王子は、自分の星と旅をしてきた星について話し始める。おとなに合わせて「ものわかりのいい人」になるため絵を描くのをやめた男と、一度聞き出すと返事をするまであきらめない王子と、宇宙にある様々な星に住む人々と、トゲのあるバラの花と。おとなたちには、それがどんなにだいじなことが、けっしてわかりっこないのだ。

クリックすると、目次に戻ります。⇒

目次へ

26 絵ときゾウの時間とネズミの時間

本川達雄/文 あべ弘士/絵 福音館書店



ゾウもネズミもその一生で 50 億回の心拍を打つ。違いは心拍のスピード。体の大きいゾウはゆっくりと心臓が収縮し、小さいネズミは高速で拍を打つ。だから 50 億回を打つまで(つまり一生を終えるときまで)の時間の長さは違ってくる。長生きする生物も短命な生物も実は自分の時間の中では同じだけの長さがある。命の長さについて考えを深める機会になる本。

27 紙つなげ！彼らが本の紙を造っている

佐々涼子/著 早川書房



本は読んでいても紙のことを考えたことはないのではないだろうか。流れ着いた無数のコンテナや車、民家、遺体などで埋まり、2011.3.11 宮城県石巻の日本製紙工場は壊滅的な状況だった。「この工場が死んだら、日本の出版界は終わる…」と、膨大な泥を手作業で掻き出すことから始め、半年間で工場を建て直す必死な姿を追っている。紙造りの人々のひたむきな姿が胸をうつノンフィクション。感動と感謝の 1 冊である。

28 カレーライスを一から作る 前田亜紀/著 ポプラ社



みなさんはカレーライスが好きですか？カレーライスを作ったことはありますか？野菜や香辛料を畑で栽培し、水田で稲を育て、肉となる動物を雛から世話をし、器やスプーンを土から作り…と、何から何まで本当に1からカレーライスを作ります。様々な出会いと別れを経て、カレーライスが完成したとき、命をいただくことについて改めて考えさせられる良い機会となることでしょう。この本を読んだ後、ぜひ「いただきます」を言うてください。

クリックすると、目次に戻ります。⇒

目次へ

29 北里大学獣医学部 犬部！ 片野ゆか/著 ポプラ社



北里大学獣医学部の学生が、ボランティアで、行き場をなくした犬や猫等の保護活動で奮闘する話です。メンバーの活動の原動力は、犬や猫が好き、かわいそうな動物を救いたいという気持ちです。ぼろぼろになった動物を苦労してケアし、新しい飼い主へ引き渡す場面は感動します。ですが、場所や時間、資金の確保の問題、動物への責任が伴い、時には自分のプライベートを犠牲にして成し遂げていて、動物愛護活動の現状についても考えさせられます。

30 きみの人生はきみのもの—子どもが知っておきたい「権利」の話 谷口真由美・萩上チキ/著 NHK 出版



中学生ともなれば、誰でも悩みのひとつやふたつ、ありますよね。この本は、24の困りごとについて、解決するヒントを、根拠となる法律や相談できる機関とともに紹介しています。「しかたない」とあきらめているその悩みは、「子どもの権利条約」で保障されており、我慢しなくてもいいことかもしれません。私たちのもつ「権利」について知り、今後の生活に生かすことができる1冊です。

31 「空気」を読んでも従わない 鴻上尚史/著 岩波書店



「忙しいけど、SNSに返信しなきゃ……」「周りの目が気になるな……」あなたはこんな風に息苦しくなっていないだろうか。人の目を気にして本当の自分を出せないのも、周囲に流されて本音を隠してしまうのも、あなたが弱いからではない。私たちが「世間」に縛られているから。では、縛られないで生きるためにはどうしたらよいのだろうか。息苦しい人間関係に悩む人たちに向けて、息苦しさの正体と、その対処方法を教えてくれる一冊。

クリックすると、目次に戻ります。⇒

目次へ

32 聖の青春

大崎善生/著 講談社



将棋のプロになるためには、奨励会という養成所に
通い対局を重ねながら強くなり 21 歳で初段、26 歳
までに4段に上がられなければ辞めさせられるという厳
しいルールをクリアしなければならない。村上聖は幼
い頃から重い腎臓病を抱えながら、名人になりたいと
いう夢を抱え壮絶な短い一生を生き抜いた。純粹で
将棋以外のことには、全くこだわらない性格で、家族
や仲間や師匠たちから深く愛された。

33 さばの缶づめ、宇宙へいく 小坂康之・林公代/著 イーストプレス



「宇宙食、作れるんちゃう？」何気ない一言から、授業で作
るさばの缶づめを宇宙食にしよう、という高校生たちの挑
戦が始まった。しかし宇宙食には厳しい衛生基準があり、
「地上よりも濃い味に」「汁が飛び散らないように」など宇
宙ならではの課題も山積み。さらに統合されて高校がなくな
る話が持ち上がり……。14 年の間、先輩から後輩へバ
トンをつなぎ、世界初の「高校生による宇宙食」を作り出し
た、福井県立若狭高等学校の取り組みを描いた実話。

34 素数ゼミの謎

吉村仁/著 石森愛彦/絵 文藝春秋



アメリカの一部に生息する、13年、または17年
ごとに必ず同じ場所に発生するセミ。この数字が1
とその数字でしか割り切れない「素数(そすう)」で
あることから名づけられた「素数ゼミ」は、いかに
してこのような性質になったのだろう。調べてい
くと、そこには46億年にわたる地球の歴史と深い
かわりがあったのだ！数学と歴史、生物の進化
がリンクする不思議なおはなし。

クリックすると、目次に戻ります。⇒

目次へ

35 だれも教えてくれなかったエネルギー問題と気候変動の本当の話
ジャン＝マルク・ジャンコヴィシ/著 クリストフ・ブラン/著
古舘 恒介/監訳 芹澤 恵・高里 ひろ/訳 河出書房新社



二酸化炭素の排出を減らして、温暖化を止めようと言われて久しい。しかしその試みは残念ながら達成できていない。なぜ達成できていないのか。問題解決の何が難しいのか。まずはそこを知るところから始めてみよう。

フランスのエネルギー学者とイラスト担当の漫画家による、環境やエネルギー問題についてのやりとりがわかりやすい会話形式で進む。イラストが多く読みやすい一方で、とても考えさせられる一冊。

36 小さなかかがやき 長倉洋海/写真 谷川俊太郎/詩 偕成社



じっとながめていると、写真から子どもたちの“いのちのかかがやき”や長倉さんの温かく優しいまなざしがみえてくる。世界の辺境や紛争地で写真を取り続けているフォトジャーナリストの長倉洋海氏。この本ではどんな地でも前を向いて生きている子どもたちのけなげな素顔を紹介。詩人の谷川俊太郎さんが5編の詩を寄せている。その言葉は写真と響きあって心に深く入り込んできて、私たちの明日への力になってくる。何度も読み返したい本である。

37 ニワシドリのひみつをもとめて 鈴木まもる/著 理論社



ニワシドリとはオーストラリアとニュージーランドに生息する鳥です。この鳥の特徴は木の枝や木の实、葉っぱなどで「アズマヤ」と呼ばれる小型の家のようなものを作ります。なぜにニワシドリが「アズマヤ」を作るのか、その謎を解くために作者は現地に行き観察を続けます。この本は作者の旅の様子が描かれています。ぜひ、一緒に秘密を解き明かしましょう。

クリックすると、目次に戻ります。⇒

目次へ

38 見たことのないものをつかまえたい！世界の変な生き物探訪記

平坂寛/文 米村知倫/イラスト 偕成社



生き物が大好きな作者・平坂寛さんが、大好きな生き物をより詳しく知るため、実際に生き物を捕まえて観察したり・食べたりした記録がまとめられた一冊。捕まえるのも最初からうまくいくわけではない。失敗から生き物の特徴をさらに分析し、捕まえるためにどうすればいいのかをさぐっていく様子が細かく書かれている。さらに興味深いのは生き物の味について書かれたところだ。イグアナやデンキウナギなど、不思議を探る冒険に出発してみてほしい。

39 ヤモリの指から不思議なテープ

石田秀輝監修

松田素子・江口絵里/文 西澤真樹子/絵 アリス館



自然界はまさにワンダーランド！不思議なことに満ち満ちている。そうした自然界の不思議を知ることができるようになったのは、人類の技術がナノレベルの世界を覗けるようになったから。極小世界から覗いた生物の体のしくみはまさに驚きの連続。それを参考にして人類は技術革新を模索している。そんな技術の進歩と生物の関係を知ることができる本。

40 ローザ

ニック・ジョヴァンニ/著 ブライアン・コリアー/絵
さくまゆみこ/訳 光村教育図書



昔アメリカでは、バスの席は前が白人用、後ろは黒人用、中間の席はどちらが座っても良いということになっていた。黒人女性のローザは仕事帰りに、バスの中間の席を白人にゆずらなかったことから逮捕されてしまう。不平等に扱われることに疲れてしまったローザは、心に秘めた強さから「ノー」と言ったのだ。多くの黒人が、バスに乗らないという非暴力の戦いを始め、世の中を少しずつ変えていったのだ。

クリックすると、目次に戻ります。⇒

目次へ